

ゴルフの精神

ゴルフは、昔から「紳士のスポーツ」と言われてきたほど、ルールを守ることが厳しく求められているスポーツです。これは、プレーをする上でマナーやエチケットを守ることが、自分だけではなく一緒にプレーしている選手や回りの人達とも気持ち良くゴルフを楽しめる様にする為に、とても重要だからです。そして、野球やサッカーなどの競技と最も違うのは、プレーの場に審判がいないということです。スコアの申告、ルールを守ることなどすべてゴルファー個人にゆだねられているのです。したがって、選手はつねに公正、公平の理念を自覚し、フェアプレーに徹したスポーツマンシップ、さらにはフェロウシップを求められます。自分に恥じないプレーを心がけることで、自分ばかりか他の選手も気持ちよく楽しいゴルフができるように心がけましょう。

ゴルフの基本理念

- ◆「公正の理念」: 自分の有利な条件をつくらない。
- ◆「公平の理念」: 大会に参加する選手全員が平等な条件でプレーができる。

<GOLF RULE>

ゴルフの基本 2 カ条

1. 球の軌跡をつないでいく。
2. ボールのあるがままの状態プレーする。

ラウンド前のエチケット&マナー

BEFORE THE ROUND

◎ゴルフにふさわしい服装

大会会場にはTシャツ、タンクトップ、ノースリーブ、Gパンなど、ラウンドにふさわしくない服装は厳禁です。基本的には男女ともに、襟のあるシャツを着用し、ラウンド中に、タオルを腰からぶらさげたり、首に巻いたりするのも、格好の悪いものです。

◎クラブハウスでの服装に配慮

クラブハウスのフロントでは身だしなみや言動に気を配って入場しましょう。ゴルファーにふさわしくない乱れた服装(ジーンズやタンパン、Tシャツ、サンダル)や非紳士的な振る舞い、あるいは下品な言葉つかいは、会場の大事なクラブを侮辱することになり、慎みたいものです。

◎集合時間厳守

ゴルフ場には、十分なゆとりを持って出かけることが肝心です。着替えやトイレの時間なども考慮して、遅くとも何時に到着すべきかを考慮しましょう。遅くとも、スタート30分前にはコースに到着し、受付をすませるようにしましょう。

◎「挨拶」をかけあう

朝、コースに着いた時やスタート前には、大会関係者や他の選手、その親御様、キャディさんに「おはようございます！」と声をかけあいましょう。

◎受付及び主催側からのルール確認

会場に着いたら、まず、出欠の受付を済ませます。その際には、ゴルフ場のロッカーキーや名札、組合せなどを受け取り、スタート時刻を確認の上、主催側の指示に従ってください。競技スタート前に、参加者全員にコースのローカル・ルールを含む注意事項などの周知を計ります。この集会は当然スタート前の時間に余裕を見て、かつスタート・ティから十分に離れた位置で行いますので、受付の際に、集会時刻を確認しておくといいでしょう。

◎キャディーバッグに名札を付ける

キャディーバッグには、必ずフルネームの名札(ネームタグ)をつけてください。キャディさんが、スタート前にバッグをカートに積むときや、帰りにバッグを整理するときに、名札がないとバッグを見つけないことができず、迷惑をかけます。アナウンスで呼び出されてしまうこととなります。

◎ボールは十分に用意する

特に、初心者の方は、ボールやティーなどを多めに持参してください。OBや池に打ち込んだりして、予想以上にボールがなくなるケースがあるからです。プレー中にボールがなくなってしまうぬよう、

自分のレベルに見合った、十分な数を用意しましょう。また、スタート前に自分のクラブの本数を調べ、確認しておきましょう。

◎ラウンド中に必要なものはすぐ出せるように

ティーペグ、ボール、グリーンフォーク、グローブなど、ラウンド中に必要なものは、すぐに取り出せるように整理しておくといいでしょう。必要な分は、ポケットに準備して、キャディーバッグに収納するときも、探さなくてよいようにしましょう。準備が悪いと、プレーの遅延にもつながります。

◎レストランでの振舞いに注意

クラブハウス内やレストランなどでの、大声で騒がしいお喋りは厳禁。昼食などで、クラブハウスに入るときには、スパイクに付いている芝や泥などは、必ず落としてから入るのがマナーです。また、クラブハウス、レストラン内では、雨具・帽子を取るのが常識です。

◎ゴルフ保険に加入する

万一の事故などに備えて、保険に加入するのが無難です。金属製のクラブで、硬いボールを打つので、思わぬ大事故になる可能性もあるからです。自分の狙った所へは、なかなか飛んで行かないものだということを、念頭に置くべきです。ゴルファー保険は、対人賠償、本人のケガや用具破損・盗難を補償してくれます。

◎スタート前に十分なストレッチを

選手は、競技スタート前に、体ならしの為に軽い体操をしてから練習に入りましょう。力まずにボールを打つようにし、体をリラックスさせましょう。またパッティンググリーンでパッティングをして、その日のグリーンの調子を調べましょう。

ラウンド中のエチケット&マナー

DURING THE ROUND

ゴルフは長い時間、同じ人達と一緒にプレーするので、同じ組ばかりでなく、前後の組の人など、周囲の人達に不愉快な思いをさせないように配慮しなければなりません。エチケットの第一は安全なプレーとスピーディーなプレーをすることです。

◎スタート前に使用球を確認

スタートホールでは、同伴選手同士で各自の使用球をブランド名と番号で確認し合うようにします。これはプレー中に複数の球が接近して止まったときの、各自の持ち球の識別を容易にするためです。(誤球防止) もし、同じブランド名、番号のプレーヤーがいた場合には、どちらかがブランド名、ないしは番号を変えるようにします。なお、球に独自のしるしを入れる場合、図柄や寸法に規則上の規定はありません。OB やロストボールで、新しいボールに換えるときは、同伴選手に伝えておきましょう。

◎ラウンド時間の目安はハーフで2時間以内

ラウンド時間の目安としては、前半の9ホールで2時間以内。前の組が見えなくなるほど間が開いてしまうことのないようにし、後続の組が迫っているときも、迅速なプレーをすること。遅いプレーは、同伴選手に迷惑をかけるばかりでなく、コースの運営にも迷惑がかかります。

◎打つ準備は前もって

ティーショットの打順は、スタート前にジャンケンや抽選などであらかじめ決めておきましょう。打つ順番が来てから、クラブの選択をしたり、ボールを換えたり、グリーンのラインを読んだりするのは、プレー遅延につながります。打つ順番がくる前に、事前にできる事は、すべてきっちりと済ませておく事が肝心です。

◎うっかり素ぶりは危険千万

素振りをする時は、自分の前後左右やスイングの方向に人がいないどうかを良く確かめましょう。この時にたとえ離れていても人のいる方向へは絶対に振らないで下さい。思いがけずヘッドが抜けて飛んでいくこともあれば、ダフって土をかけてしまうこともありますので危険です。モノを飛ばさなくてもその方向にいる人に失礼というものです。ティショットでは、ティーインググラウンド以外での素ぶりはやめましょう。また、素振りをしている人には無闇に近づかないようにしましょう。

◎ショットは速やかに

自分のショットの時、何度も方向を確認したり、アドレス等のチェックや、何度も素振りをしたりする行為は、同伴選手の迷惑となります。じっくりと間をおくことも、時として必要ですが、毎回のショットで遅延を招くことは避けましょう。また、同伴選手がボールにアドレスしたら、動いたりおしゃべりしたりせ

ず、大きな音も立てないように気を使いましょう。相手のプレーを良く見て、良いショットなら「ナイスショット」と声をかけるのもマナーです。

◎ティーインググラウンドに上るのはティショットをする人だけ

選手は自分のティショットの打順のとき以外はティーインググラウンドに上がらないこと。ティショットで打順がくるまでの素振りや、ティーグラウンド以外のスペースで、周囲の安全をよく確認してから行いましょう。たとえ、ティーグラウンドが広くても、同伴選手がティショットを打ち終えるまでは、自分のティーアップをしてはいけません。打順が巡ってきたら、すぐにティーアップできるように、ボールとティーペグを持って待機しましょう。

◎クラブは2、3本持っていく

ボールのある場所へ行ったら、思っていた距離と違っていたということがよくあります。カートから離れている場合、クラブを1本しか持って来ないと、また、クラブを取りに行かなければなりません。基準となるクラブの他に、前後、1、2本持って行くのが無難です。特に、ビギナーはミスした時の使用クラブも考慮して、持って行くようにしましょう。

◎予備のボールを持つ

OBやウォーターバザードに打ってしまったりして、思わぬところでロストボールになる可能性もあります。カートから離れている場合、取りに行く時間が無駄になり、カートまで走ったりすると、リズムを崩してしまうことにもなります。予備のボールは常に1、2個は持っておきましょう。予備のボールを使ったら、すぐに補給しておくことも肝心です。

◎移動は速やかに

移動の時に、のろのろと歩くのは避けたいところです。プレーが終わったら、速やかに次のプレー地点に移動しましょう。もちろん、プレーしている同伴選手の迷惑にならないように、気を配りながら、速やかな移動を心がけましょう。

◎先行組との距離

必ず、前の組がボールの届かない位置まで離れたことを確認してから、ショットしましょう。特に、アップダウンの激しいコースでは、前の組のプレーヤーが見えないこともあります。その点に、十分配慮したいところです。キャディがいるなら、打てるかどうか、確認することも大切です。第2打以降でも十分に間合いを見計らって…。とくに先行組がグリーンにいるときは、グリーンが空くまでプレー禁止。

◎隣に打ち込んだら、「フォー」と大声で

誤って他のホールに打ち込んだ時はただちにその方向に向かって「フォーッ」と大声で叫びましょう。これは同じホールの先行組に打ち込んだときも同じ。打ち込んだ先のプレーヤーが気づいて振り返ったら、当然早々に誤ってください。

◎隣のホールから打つ時は一声かけて

隣のホールに打ち込んで、そこからプレーを続行する場合、そのホールにプレーヤーがいたら、打ち終わるのを待ちましょう。自分がショットした後は、「ご迷惑をお掛けしました」と一声をかけること。

◎プレー中の人より前に出ないこと

これから玉を打とうとする選手の前に出ることは大変危険であるし、またその選手が目障りにもなります。また、選手の真後ろに立つことも、視界に入るのでマナー違反です。視界に入らないように、左右斜め後方に立つのが肝心です。

◎疑わしいときは必ず暫定球を打つ

OBかセーフかという判断が微妙な場合は、暫定球を必ず打っておくこと。落下地点付近まで行って、OBであることがわかった場合、ショットした場所まで戻らなければならないので、スロープレーに繋がってしまうからです。

◎球捜しの心得

行方不明の球は規則で5分間捜すことができますが、明らかに見つかりそうもないときは、さっさと切り上げるようにしましょう。

◎スコア管理はしっかりと

ゴルフはスポーツの中で唯一、審判がいないスポーツですが、過少申告はマナーの問題ではなく、競技失格に値するルール違反となります。またスポーツマンシップも疑われる行為です。初心者にとっては、スコアを数えるのだけでも大変なことですが、正確に管理することがラウンドの第一歩です。

◎折れたティーペグは拾いましょう

ティショットでティーペグが折れたからといって、拾わないで、その場に放置するのはやめましょう。ティーペグは、拾っておくのがマナーです。

◎目地袋のご用意を

フェアウェーを傷つけてしまったときには、切り取った芝はもとに戻すなどして、修復しておきましょう。素振りでもフェアウェーを傷つけても同様です。大きなディボットに気が付いたら、できるだけ修復しておきましょう。

◎ボールマークの修理

球の落下で生じたグリーンの凹状の穴をボールマークといい、自分が作ったときは修理する責任があります。まず、グリーン・フォークを穴の外周から穴底の中心に斜めに差し込み、隆起した芝土を外側から起こして穴の中に押し込みます。そしてパターヘッドで整地します。この場合、差し込んだフォークの先で芝の根が切れないよう、穴の底の土を上押ししないことが肝心です。

◎動かした人工の障害物はもと通りに

ショットの障害になるということで、修理地の杭や、OB杭などを動かしたり、抜いたりした時には、元通りにしておきましょう。

◎修理地は避ける

青い杭で囲まれた修理区域は、避けて通らしましょう。近いからといって、芝を育成中の区域を踏み荒らしたりすることのないようにしましょう。

◎エチケットリーダーは責任を持って

コンペなどでは、1組のうちの1名を「エチケットリーダー」にして、エチケットやマナーの悪いプレーヤーがいたら勇気を出して注意しましょう。初心者のプレーヤーには、皆が教えてあげることも肝心です。

グリーン&バンカーでのエチケット&マナー GREEN AND BUNKER

◎グリーン上の傷は直しておく

ボールが落ちてできるボールマークは、グリーンフォークなどで直しましょう。自分のショットでできたボールマークでなくとも、直してあげるくらいに、みんなのグリーンを大切にしましょう。

◎グリーン上ではスパイクを引きずって歩かない

グリーンでスパイクを引きずって歩くと、グリーン面に引っ掻き傷ができ、後続のプレーヤーに大変迷惑をかけます。ボールマークはプレー前に修復可能ですが、シューズの引っ掻き傷は、プレー後にしか直せないのではなおさらです。傷をつけてしまったら、踏んでならしておきましょう。

◎ラインの読みは手短に

必要以上に時間をかけて、パッティングラインを読むのはやめましょう。打順が回ってくる間に、ラインを読んで自分のパッティングイメージしておくことが、スロープレーを避けることにもつながります。

◎ラインの延長線上に立たない

人がパットをしている時に、パッティングラインの延長線上に立ってはいけません。パットをする人の視界に入らないように、打つ人の正面か、後方に立つこと。

◎パット中は動かない

ショット同様、同伴競技者がパットをするときには、動いたり音を立ててはいけません。相手の集中力をかき乱す行為は、完全なマナー違反です。

◎ライン上に陰を落とさない

同伴競技者がパットをするときには、自分の影にも気を使いましょう。ライン上には、自分の影を落とさないように気をつけましょう。

◎人のラインを踏まない

グリーン上では、同伴競技者のボールの位置をよく把握した上で、カップとボールを結ぶラインを踏まないように気をつけましょう。かなり失礼な行為です。ラインを横切るときは、またぐようにしましょう。あるいは、カップから見て、ボールの位置の後方から回り込むように動きましょう。

◎お先パット

打順は、ホールから遠い球の人が、先に打つのが原則ですが、カップのそばの球は先にプレーしても構いません。1グリップ程度の距離であれば、プレー進行を考慮して、お先パットをすることを心掛けましょう。

◎旗竿はホールにきちんと戻すこと

旗竿を抜き差しするときは、ホールの淵を傷つけないようにして抜いて下さい。旗竿がソケットに固着しているときは、竿を回転させながら抜きます。差し戻すときはホールに対して垂直に下ろしてください。また旗竿を置くときはできるだけグリーンの外側にそっと置き、グリーン面にパタンと倒すのはご勘弁。抜いた旗竿は、グリーンを離れる前に、ホールの中に正しく戻しておきましょう。

◎バンカーは必ずならしましょう

バンカーショットを打った後は、必ずバンカーレーキを使って、掘った砂をならしておきましょう。急いでいるからといって、掘ったままにしておくのは、後続プレーヤーに大迷惑です。使ったレーキは、必ずもとに戻しておきましょう。

◎バンカーにはボールの近くから入る

バンカーはボールに近くなおかつ浅いところから入り、入ったところから出るこれも常識です。最後にバンカーレーキでならすときにも、入ったところから出れば、足跡をならす手間もかかりません。土手の低い方から入れば、コースを痛める事が少ないでしょう。

◎グリーン周りのバンカーやアプローチでは一声

グリーン周りのバンカーから打つとき、グリーン上にプレーヤーがいる場合には、一声かけてから打ちましょう。ボールがトップして、同伴選手を直撃するなどの危険もあるからです。特に、ショットに自信のないときには、躊躇せずに、グリーンを空けてもらいましょう

◎プレーが終わったら、すみやかにグリーンから離れる

そのホールでのプレーが終わったら、すぐにグリーンを離れて、後続の組のためにグリーンをあげましょう。グリーン上でスコアカードに記入したり、アテストしあったりするのはスロープレーの原因となります。次のホールに、移動する間に済ませましょう。

◎プレーを終えて

ホールでのプレーがすべて終了したら、選手同士で互いの健闘をたたえ合しましょう。クラブハウスに戻ったら、クラブの本数を点検し、他の選手のクラブと入れ替わっていないか確認しましょう。アテスト場では、大会で指定されたスコアカードにラウンド数、スコアの確認、クラブ本数の有無、署名などを行いましょう。

◎トラブルショットでは、クラブを2、3本持って

もし、打球が曲がって、林などに打ち込んでしまった場合は、クラブを2、3本持っていくのが無難。短いクラブで横に出すか、グリーン方向に狙えるかは、ボールまで行ってみないと分からないからです。

◎ロストボールは必要以上に捜さない

ルールでは、ボールを捜す時間は5分以内という規定があります。速いプレーをするためにも、なくなったボールは必要以上に捜さず、潔くロストボールにすることも大切でしょう。

◎明らかに無理なところから打たない

あるがままのところからボールを打つことが、ゴルフの大原則ですが、急な斜面など、明らかにショットが無理なところでは、アンプレイヤブルを宣言しましょう。思わぬ事故をおこして、同伴選手に迷惑をかけないようにしたいものです。

◎ボール探しは進んで手伝う

ボールを捜している同伴選手の近くにいるなら、極力、捜すのを手伝ってあげましょう。ロストボールは誰にとっても、嫌なものですし、スロープレーを避けるためにも、皆で協力して捜してあげましょう。

◎相手のボールの行方を見てあげる

打った選手本人も含め、誰もボールの行方を確認できなかった場合は、ボール探しも困難になります。逆光で、本人のショットの位置からボールが見えなくとも、他の角度からは、よく見えたりもします。自分のことばかり考えず、他の選手のショットも良く見ておきましょう。

◎見つけた球は確かめてプレー

ラフなどで行方不明の球が見つかったときは、よく確認してプレーしなければなりません。特に、隣接ホールとのセパレート的林などでは誤球プレーを起こしやすいので注意が必要です。他の選手のインプレーの球を誤球するぐらい迷惑なことはありません。

◎隣のコースから来たボールは教えてあげる

隣から打ち込まれたボールは、腹立たしく感じることもあるでしょうが、打者が近くに来たなら、ボールの位置を教えてあげましょう。自分が同じ状況になったときには、教えてもらうとありがたいと思えるはずです。

◎フラッグの位置を教えてあげる

同伴選手が、崖下からのショットなどのトラブルに見舞われている場合には、進んでピンの位置などを教えてあげましょう。自分がそのようなことになった場合には、先にグリーンの方角を確認してから、ボールの位置に付くことも肝心です

事故防止のためのエチケット&マナー

AVOIDING ACCIDENTS

◎斜面の急なところは避ける

クイックプレーがマナーの原則ですが、急ぐからといって、無理に急斜面を通ったりするのは避けましょう。足を捻挫するなどの事故につながります。極力、なだらかなところを選んで通るように心がけましょう。深いバンカーでは、ボールに近いからといって、急斜面を登り降りするのは危険です。階段があるときには、それを利用するよう心がけましょう。

◎むやみに林や茂みの奥に入らない

林の中に、ボールを打ち込んだ場合、うっそうとした林や茂みには、深く立ち入らないことが懸命です。マムシに噛まれたり、蜂に刺されたり、急な崖になっていて転んでしまったりなど、予期しない事故もありえます。

◎同伴選手が見えないときは一声

深い林の中や、崖下、隣のコースなどからフェアウェーに出すときには、同伴選手に一声かけて、相手の確認の返事を待ってから打ちましょう。

◎障害物付近でのショット

人工の障害物付近などでショットをする際には、ボールが強く跳ね返って、思わぬ方向に飛ぶ可能性もあります。こうした場合も、念のため、打つ前に同伴選手に声をかけておきましょう。

◎雷のときはすぐに非難を

ゴルフの事故で、最も多い部類の一つが雷です。雷警報がサイレンにより発せられた場合には、直ちにプレーを中断し、最寄りの避難所に避難し、主催側の指示に従って行動してください。

◎乗用カート使用時の注意点

大会で、電磁誘導の乗用カートを使用する場合には、次の点に注意しなければなりません。電磁誘導乗用カートは、カート同士では衝突防止センサーがはたらき、衝突することはありませんが、人間には反応しません。従って、カート前には絶対に出ないようにしてください。